

# 「セリリー疫病」について

令和3年6月、南信地域の水田転換畑で栽培しているセリリー栽培ほ場、特に排水不良の箇所において、立枯れ、外葉の黄化、道管部の褐変、芯葉先端の腐敗などの被害株が見られました。

長野県野菜花き試験場で病原菌の分離、形態観察、病原性試験、遺伝子解析等を行ったところ、*Phytophthora*属菌による疫病（仮称）であることが判明しました。

## 被害の様子

- (1) 発病は定植後、間もない頃から見られます。
- (2) 症状は主に葉の黄化（図1）を伴う生育停滞、萎縮（図2）や道管部の褐変がみられ（図3）、カルシウム欠乏による芯腐れ症状に似た芯葉の腐敗等（図4）がみられます。
- (3) 本病が発病しやすい条件など特性等については、現在、県野菜花き試験場で調査を行っています。



図1 被害の様子



図2 定植後株全体の萎縮



図3 道管部の褐変



図4 芯葉の腐敗  
(カルシウム欠乏による芯腐症に酷似)

## 防除の方法

令和4年1月末現在、登録されている農薬はないため、当面、以下のような耕種的手法を徹底してください。

- (1) 市販の簡易キット（agdia社製）で簡易診断が可能。早期発見に努め、発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に搬出し埋却等適切に処分する。
- (2) 一般的に疫病は、排水不良により発生が助長されるので、耕盤破碎や畝（うね）を高くするなど排水対策を行ってください。

疑わしい症状を見つけたら、最寄りの農業農村支援センター又は病害虫防除所までご連絡ください。

長野県病害虫防除所（東北信）TEL026-248-6471（中南信）TEL0263-53-5642

発行 長野県病害虫防除所 令和4年3月作成